「遊星面課トピツク．ニユース」

去る二月四日，中華民國々立北平大學，無線電氣工學教授馮簡氏が花山へ來られ，是非と云はれるので，臺長の案内で Cooke の大赤道儀で觀望された．折しも夜半に火星，木星が昇つて來たので，誰でも見たがる此の星を先づ山本臺長が視野に入れて見られたが，seeing は賞める程でもなく，そのため 20 cm 位に絞つて，濃い二本の Belt が目立つた位であつた．所が馮先生が見られて，その模様が細かく見えると云はれ，數本の Belt を簡單にスケツチさへして臺長に見せられた．内々，臺長はその眼に驚かれ，今度は，火星へ筒先を向けられた．煤色の火星が視野の中央に現れ，北極冠は見事に，又黑い模様が中央邊に擴つて居るのがよく見分けられた．然し何分 seeing は左程よくなく，視直經も大きくもないので，充分に形狀を見極める程でもなかつたが，次いで見られた馮先生はシルチスらしいとて，又も細かくその模様を見られ，非常に滿足の様子であつた．—— その鋭い觀測振りには，臺長も驚かれた様であつた．馮先生は 7——8 cm の望遠鏡を所有されて居る様だが，勿論 30 cm もある口徑を通して見られた事は初めてであつた．將來この様な方々が當課のメンバーにでも入つて頂けば——否必ずそうした日が來ることを信じ，學術的にも，又國際的親善にも當會が益々有意義なものになる事を喜んのだのは，敢て一個の空想でもなさそうだ．

編輯だより

◇東に西に，南に北に，昨今の天文學の普及は實に目覺しいものです．同時にあらゆる階級の人々の天文への關心が擧つて深められて行きます，試みに本號のどの頁でも開いてごらんなさい．期せずして天文學への感激で滿ちてゐます．延びやうとする自然の力が躍つてゐます．既に天文學は單に數寄人の趣味ではなくなつたのです．……本誌のために最近多くの讀者から種々の玉稿を寄せられるやうになつたのも實にかうした精神が認識されて來た結果だと思つて，秘かに欣び，又將來を期待してゐます．何時までもこの發展を續けたいものです．

◇長らくお待たせした昭和九年度の「天界總目次」，が稻葉先生の御盡力で出來上りましたから，本號に挿入することにしました．綴金を外して御利用下さい．

◇今後の**本會例會日**（當夜，**花山天文台夜間觀測一般公開日**）が下の如く定まりました．**4月20日，5月18日，6月15日，7月13日，8月10日，9月14日，10月12日，11月9日，12月7日**．（T. T. 生）